

異世代ホームシェア事業の試験的運営

事業責任者： 菊地 吉信（工学研究科・准教授）

代表学生： 尾野 加朱実（工学研究科・博士前期課程 1 年）

概 要	<p>異世代ホームシェアとは高齢者宅の空き室を学生が借り、家主である高齢者と学生とが共同生活を送る住まい方を指す。孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、高齢者と学生の双方に様々なメリットが期待できる。本事業は 3 年間をかけて、関係機関に協力いただき、地方都市では先例のない異世代ホームシェアを福井に根付かせることを目的として取り組む。平成 28 年度は 2 年目であり、連携団体等との協働体制の深化と新規参加者の開拓を目的とし、①現在実施中のペアのアフターケア、②広報用素材の作成、③運営フォーマットの改善、④参考事例の調査、⑤実績評価等を行う。</p> <p>期待される効果としては、①地域住民ならびに学生の生活環境の向上に貢献できること、②運営に参加する学生の実践力を養うことができること、が挙げられる。</p>
関連キーワード	ホームシェア、高齢化、世代間交流、空き室・空き家、住環境

事業の背景および目的

高齢化と少人数世帯の増加は全国的傾向であり、高齢期の世帯、特に単独世帯にとっては、日常的な住宅の手入れや防犯など住み慣れた環境を維持するための身体的・精神的負担が自立した生活を続けるうえでネックとなるものと想定される。また住宅と世帯の関係をみると、住宅規模に対して世帯規模が小さく、ふだん使用しない空き室を抱えていることが窺われる。

一方、一人暮らしの若者は生活費を節約する傾向にあるが、生活費のうち住居費の占める割合は依然として大きい。また不慣れた土地での一人暮らしに馴染めず孤立感にさいなまれるケースも生じている。

以上のことから、異世代ホームシェアを導入することにより、家主と若者双方の孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、双方にとって様々なメリットのある住まい方となることが期待できる。

本事業は 3 年間をかけて、地方都市では先例のない異世代ホームシェアを福井に根付かせることを目的として取り組む。平成 28 年度は 2 年目である。

事業の内容および成果

平成 28 年度は広報活動の充実と関係団体との連携強化に取り組みつつ、新規利用者の開拓を目指し、①広報用素材の作成と配布、②参考事例の調査、③新規利用者の開拓、④実績評価等を行った。

①広報活動としては大学近くの公民館での行事や、民生委員の集会に出席して事業内容を説明した。また福井新聞の折り込み広告を制作し、文京キャンパス周辺一般世帯に広く配布した。

②参考事例については、京都や東京で同様の事業に取り組む事業主体と情報交換を行ったほか、運営の参考になると考え福岡県大牟田市の居住支援協議会を訪問し聞き取り調査を行った。

③新規利用者は、1 組のマッチングが実現し、3 月下旬から生活が始まることとなった。

以上より、年度当初の目的は概ね達成できたと考えるが、今後も積極的な広報活動等を行い、引き続き事業の充実をはかりたい。また、新たに始まった利用者のアフターケアも抜かりなく行うこととする。

参考文献・添付資料および特記事項等

事業名称:異世代ホームシェア事業の試験的運営

事業責任者: 菊地 吉信 (工学研究科・准教授) 代表学生 : 尾野 加朱実 (工学研究科・博士前期課程1年)

背景と目的

家主(主に高齢者)と若者(主に大学生)双方の孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、双方にとって様々なメリットのある住まい方となることを期待できる。

本事業は3年間をかけて、地方都市では先例のない異世代ホームシェアを福井に根付かせることを目的として取り組む。H28年度は2年目である。

主な成果

学外での広報活動を積極的に行い、地域住民に事業について周知した。また、運営の参考とするため他地域における同様の取り組み等を調査した。広報用素材の作成と配布、参考事例の調査については当初の想定通り実施することができた。また、関係機関との連絡・協力関係も向上し、運営スタッフとしての学生の能力も向上した。新たに1組のマッチングが実現した。

